随筆

就職あれこれ

西田俊夫*

今年の名刺の消費量はすさまじい．4月から9月までで優に600枚は使いきった．これを書いている現在は10月であるが，本誌は昭和61年新春号であるから，今年というのは昭和60年のことである．

3年前にも就職を担当したことがあるが，それにくらべて今年は求人の出足も早いし，求人会社数も多い．しかし産業界がそれほど好況であるとも思えない．貿易摩擦などにより景気の下降気味の業種も見うけられる．半導体産業にもかげりが見え出している．

それにもかかわらず求人が活発であるのは，オイルショックのときの経験が生かされているらしい．オイル・ショックのときには，数年にわたって求人を手控えた会社がかなり多い．そのために断層ができて，人事構成上かなりのアンバランスを生じ，現在中堅層の不足で困っているらしい．そのため景気の好，不況に関係なく一定数の採用を確保するという方針をとるところがふえてきている．

応用物理学科が他学科にくらべて求人数が多いのか少ないのかは私にはわからないが，平均程度ではないかと思う．書類送付だけの会社も含めて，現在求人会社数は約450社である．そのうち実際に依頼のため来学されたのは約半数である．しかし1人で来られるとは限らない．むしろ複数で来られるところの方が多い．また何回も来られる会社がかなりある．最初に卒業生が感触を探りに来て，次に人事担当者がお見えになり，最後に役員がこられるというパターンも多い．

名刺の使用量を節約しようと思って，最近の卒業生でよく知っている人には渡さないでおこうとするが，なかなかそうはさせてくれない．私に会った証拠がほしいらしくて，用件はほどほどにしても名刺を下さいとねだられる．つい情にほだされて渡すことになる．

異常に暑かった今年の夏も，会社の方々と応待しているうちに何とか過ぎてしまった．はっきりしたあてがあるわけでもないのに，暑いさなかを方々の大学を歴訪される相手の身にもなってみれば，少々の辛抱はしてもお話を拝聴せざるをえない．とくに冷房停止期間に来られた方には誠にお気の毒であった．最初から最後まで汗をふきふき話されていた姿が今でも思いうかぶ．

大学院の入試直後には，入試に落ちたわずかの学生の就職をあてにして来られた会社の方も多い．採用担当者の御苦労も察してあまりあるものがある．高度の技術化と情報化の現代における人材確保の重要性と困難さが身につまされる思いがする．それにしても，われわれの学生時代とくらべて，これだけ要望されて就職する現代の学生諸君は幸福だなと思う．

官庁関係はさすがに時期を厳守されて10月になってから求人にこられたが，公務員志望の学生もいたのであるが，求人がなかったので志望をふりかえたのもあり，かえってもう少し早く見えた方がよかったとも思ったりする．

学科の特性によるのかもわからないが，求人会社の業種はきわめて広汎にわたっている．建設業からサービス業までほとんどあらゆる業種を網羅している．もちろん現在どの企業も多角化を目ざしており，形式的な業種分類はあまり意味がないと思われる．

また大企業ばかりではなく，ベンチャー・ビジネスのようなものも含まれており，始めて耳にする会社もかなり多い．入社すれば数年で中堅となり，存分に実力がふるえると強調されて

*西田俊夫（Toshio NISHIDA），大阪大学，工学部，応用物理学，教授，理学博士，オペレーションズ・リサーチ

いる．

書類送付だけの会社も含めて，求人会社のうちどの程度が上場会社であるかを調べてみた．その結果，約半数が上場されているということがわかった．ほとんどが東証第一部であるが，わずかながら東証第二部，大証も含まれている．その内訳を新聞の株式欄にしたがって分類すると次のようである．

建設　2，　繊維　6，　紙・パルプ　2
化学　28，　石油　2，　ゴム　5
ガラス・窯業7，鉄鋼11，非鉄金属16
金属製品　3，　機械　20，　電機　66
輸送機器　18，精密　9，　諸工業　5
商業　9，　金融　5，　陸運　1
電気・ガス　2，　サービス　2

これからわかるように，電機が圧倒的に多い．全体の3分の1に近い．応用物理学科の特性の一つとして，電気系学科に近いことがあげられる．当教室の建物がちょうど電気系の建物の真向いにあるところから，電気系三学科を求人に回られた帰りに来られる会社がほとんどである．電気系の先生は，こんな話をしておられました，ということをよく聞かされる．したがって，相手の説明もかなり馴れてきておられるので，こちらも聞きやすい．

電機についで化学系の会社が多い．最近は，化学系の会社でも，半導体を生産しているところも多く，新素材の開発に力を入れている．また，ＯＡ機器とか医療機器にも関係している．応用物理が種々の学際領域の研究に適性があると認められだしたようである．

商業とか金融が意外に多いように思える．応物ではコンピュータ教育にもかなり力を入れているのであるから，コンピュータ・システムの要員としての要求はあらゆる産業にわたっている．しかしここで要求されているのはそれ以外の理由からが多い．一つはセールス・エンジニアに高度の知識が要求されだしたことである．証券会社でも，投資信託に関連した銘柄の組合わせは，ポートフォリオとして，製造業での生産計画と同じ知識が要求される．ある証券会社の方は，今後数年間に技術者の比率を半数以上にしたいといっておられる．

銀行においても，融資先の選定に関した審査部門では，多変量解析などを駆使した定量的分析が行われている．このように，金融面でも数理技術者の要求が強まってきている．

陸運が一つあるのは，阪神電鉄であり，今年のタイガース・フィーバーによるものではないかと思う．近鉄には当学科からもすでに数人就職しており，ダイヤの編成などに細かい技術が必要となってきている．

商社のなかには，松下電器に関連した松下電器貿易も含まれている．同社は電器製品の輸出が専門であるが，貿易摩擦のこともあり輸入を迫られているが何も輸入するものがないので，スコッチ・ウイスキーを輸入しているとのことである．同社を退職した女子社員の開いているバーで売っているそうである．私も一本もらって愛飲している．

上場されてはいないが，リクルート社が出しているリクルート・ブックの1500社のなかにはいっている企業も多い．この本は学生諸君がよく利用しているようである．上掲の会社は80数社ある．これはほとんどコンピュータ関係の会社である．大部分がソフト関係であるが，システム・ハウスのようなものも含まれている．

低成長の現代において，情報産業だけが毎年異常な伸びを示している．5年前に情報産業の実態調査を依頼されたことがあるが，そのとき近畿地域だけで情報サービス関係の会社が約1500社あった．現在どのくらいあるかはわからない．

情報サービス業は小規模でも参入できるところに群生した理由があるが，最近は大会社でもシステム部門を独立した別会社にするところがふえてきている．鉄鋼関係はすでにこのような形をとっているところが多いが，今年になって化繊関係もふえている．高度情報化が進むにつれてこの傾向にますます拍車がかかるであろう．このような別会社は，最初は親会社の仕事がほとんどであるが，次第に一般業務の比率が高まってきている．

また，大手のコンピュータ・メーカーのソフト関連の会社は早くからあったが，最近は富士通とか日立を中心として，地域別とか府県別に

会社を分割するところが多い．そしてそれぞれが個別に採用活動をしている．それが来学される会社数をふやしている一つの要因にもなっている．分割する理由としては，人を移動させるより仕事を動かす方が容易であり，全国的に集中するより分散した方が効率がよいということとか，就職する学生の地元志向が強まっているので地域別の方が人材確保が容易であることなどである．5年後にはプログラマーが60万人不足するともいわれており，この方面の求人も大変だなと思う．

情報産業では，引き抜きなどによる社員の移動もかなり激しく，年中採用活動をしている．私のところの卒業生でも毎年何人か転職の相談に見える．したがって求人に見える会社の方も新卒でなくてもよいから何とか紹介してくれと頼まれる．

求人会社の中の変り種としては，ゲーム関連のセガ・エンタプライゼスがある．ゲーム好きの学生に薦めてみた．また，リクルート社自身も求人に見えた．本学から醸酵とか応物の卒業生もすでに入社している．職業紹介企業の社員の必要なのも当然である．

ところが一方，本学科の就職を希望する学生数はそれほど多くはない．学部からは大部分が大学院進学を希望するので，学部卒で就職を希望するのはせいぜい10数人である．しかし，大学院の修士課程から博士課程に進学するのはごくわずかであるから，修士課程では20数人が就職を希望している．それにしても，全部合わせて40人そこそこであるから，求人会社数は10数倍にものぼる．学生諸君にとっては，まさによりどり見どりである．

このような状況であるから，できるだけ方々の会社に就職するのが望ましく，学生諸君にもそのようにガイダンスをしているのであるが，なかなかうまくいかない．一社一人の原則を強く守るように言っても，お互いの間での話し合いがつきにくいようである．その結果として，複数の者が志望する会社もいくつか出てしまった．会社側としては何人でも欲しいといわれるところもあり，こちらの思惑通りにはいかない．

また，地元志向もかなり強いようである．あらゆる企業が国際化に向けて努力している現在にあって，地域にこだわる必要はないと思われるが，本人はともかく特に母親の意向などに左右されることが多いらしい．しかし，核家族化も進んでおり，それも入社数年のことであろう．それでも今年は関東方面の会社を希望するものが7，8人はあり，全国的視野で考えている者も多い方ではないかと思う．

例年は応物から化学系の会社を志望する学生はあまりないのであるが，今年は何人か出ており，化学系の先生にも有難がられている．

これだけ多くの会社から求人があるのに，求人のきていない会社ばかり志望するへそ曲りの学生もいる．こちらから連絡しても断られる．そこで学生自身が出向いて交渉してもなかなかうまくいかない．しかしこのような開拓精神の旺盛な学生は将来大成するかも知れない．

主任業務の最大の一つは就職に関することであるが，それも何とか目はながつき始めた．それは現在，大学側が売手市場になっているためであろうと思う．この状態がいつまで続くかはわからないが，もう少し鎮静化した方が学生諸君も落着いて勉強できるのではなかろうか．

昔から年末は教師の忙しいときとされているが，果して今年は暇になるのであろうか．